

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

# はいさい

沖縄協同病院・病院広報委員会

那覇市古波蔵4丁目10番55号

TEL.(098)853-1200

FAX.(098)853-1212

http://oki-kyo.jp

発行責任者 仲程正哲

## 救急車同乗実習

日を追うごとに暑さも増し、沖縄も夏本番となってきました。私は救急車で来院される患者様の診療のため救急車で走り回る毎日です。そんな中、去る6月14日、15日に西消防署にて救急車同乗実習をする機会を頂きましたので、ご報告させていただきます。6月14日の朝9時から24時間、西消防署からの救急車出動に付いていきました。日頃、病院にいてもなかなか見れない救急隊員さんの活躍の現場を傍で見ることができる機会はとても貴重でした。またそれだけではなく、朝の体操に参加したり、はしご車に登らせていただいたり、



夜食の調理や救急車の掃除を手伝ったり、出動以外の時間も共に過ごす時間ができて本当に良かったと思います。

研修医 島袋博恵



## かりゆし(糖尿病患者)会総会

### グットコントロール賞・努力賞表彰式がありました

去る5月25日(土)、かりゆし会1年の締めくくりとして、総会・グットコントロール賞・表彰式を行いました。



会員15名(内ご家族4名)、職員7名の22名が参加しました。今回は、病院3階講堂にてカロリー計算されたお弁当を取り寄せて試食しました。薄味で、野菜をたっぷり使ったお弁当でなかなか好評でした。

ミニ学習会では、照屋先生より糖尿病腎症について講義がありました。

表彰の部は、会員30名中グットコントロール賞:15名、努力賞:2名の結果でした。表彰された皆様おめでとうございます。惜しくも逃した皆様、来年に期待しています。

伊集会長最後のあいさつで、98歳まで糖尿病で元気に患者会に参加している方を知り、「糖尿病でも長生きできることに勇気づけられた」と述べていました。糖尿病で通院されている皆様、お一人で悩んでいないで患者会に参加しませんか?きっと勇気づけられると思います。

1階外来 金城清美(かりゆし会事務局)

## 病院の活動状況 <5月度>

- ・ 外来一日平均患者数:722 (前年同月比 -61人)
- ・ 入院一日平均患者数:270 (前年同月比 +3人)
- ・ 組合員利用率:53.1% (前年同月比 +0.3%)

## かりゆし(糖尿病患者)会 『夏の料理試食会』

### お知らせ

日時:7月27日(土) 12:00  
場所:沖縄協同病院 3階講堂  
会費:¥1,000  
申し込み締め切り:7月23日(火)

## 風疹 ②

### ⑧4 総合内科



先月の『はいさい』で風疹が大流行していることをお伝えしましたが、この原稿を書いている6月25日の時点で1万102人と、ついには1万人を突破してしま

ました。ちなみに、2011年が378人/年、流行年と言われた2012年で2392人/年ですから、数字的にもその勢いが伝わるかと思えます。沖縄県の人口100万人当たりの風疹報告数は全国24位であり、流行発祥地である関東や関西と比較すれば、まだ低いかもしれませんが、しかし、普段ならめったに診ることのない成人の風疹を、5月あるいは今月だけでも数件診た、ということ自体がまさに流行の度合いを物語っており、日々の外来診療で実際に感じているところです。

風疹拡大防止の唯一有効な手段は、皆が予防接種を受けること、ということはお話ししました。那覇市が助成対象とした①19~50歳未満の妊娠希望女性②妊娠希望女性の夫or妊婦の夫③20~40歳代の男性(風疹報告患者の中心)④50歳以上の男女(③同様抗体保有率が低い)も含めた全員が予防接種を受けることで初めて封じ込めが可能になり得ると。しかし、なんとそのワクチンが足りないというのです。任意接種者が予想以上に増えたことが理由なのですが、今のペースが続くと、夏以降には在庫切れの可能性があると。夏以降には在庫切れの可能性があると。厚労省は上記①②を優先にというのです。厚労省は上記①②を優先にというのです。厚労省は上記①②を優先にというのです。厚労省は上記①②を優先にというのです。

先天性風疹症候群の赤ちゃんは今月新たに1件報告され6人となりました。ワクチンが足りないとはいえ、今我々にできることは、抗体価が低ければ予防接種を受ける、これ以外に方法はないのです。

総合内科 石井隆弘

# 平和行進通し 行進者感想



一週間かけて、核のない基地のない平和な沖縄日本を作ろうと各団体の人々が集まりともに歩いたこの平和行進や署名活動を通して平和とは何だろう、なぜ基地がなくなるのだろうか、原発を早くなくして欲しいという住民の皆様の悲痛な願いをじかに聞くことができました。私達医療人はやはり平和な社会があってこそ安全な医療を提供できるのであって、その為には今回の様な平和活動の大切さを心から感じる事ができました。また行進団や多くの人々や職場の理解や応援がありこのような企画に参加できたことを心から感謝いたします。機会があればまた来年も参加したいと思ひます。

手術室 看護師 勝村創

通し行進に参加させてもらい、暑さや身体的なキツさもありましたが、内地の方を含めた12名の通し行進者と1週間歩き、平和について考えることができました。

ただ文章や語るだけではなく、みんなで声を出し行動することで、より訴えられるのだと感じました。1週間というのは大変でしたが、平和を考えることができたことや新たな出会いや仲間との絆を深める良い機会となったことをとても嬉しく思いました。

ICU 看護師 徳元佑希

1週間通して行進するというのは不安もありましたが、無事に戻ってこれてほっとしています。この行進にはたくさんの方々の協力のもと成り立っているのだと実感しました。また、それと同時に平和には多くの人の力が必要だと思ひました。

6階病棟 看護師 外間祐太郎

1週間暑いなかで大変でしたが、普段学ぶことのできない平和について学ぶことができました。また、平和について学ぶだけでなく、一緒に行進をした方々との交流の場にもなりました。このような貴重な経験ができる機会を与えてくださった周りの方々に感謝したいと思ひます。

6階病棟 看護師 田場匠

国民平和大行進に7日間の通し行進として参加し、私は多くの事を学ぶことが出来たと思ひます。平和の尊さ、原水爆の脅威など7日間歩き通すことで深く考えることも出来ましたし、実際に基地などの前を歩く際には目で見て感じることも出来ました。体はとても疲れましたが、多くの経験ができたので通し行進に参加出来て大変良かったと思ひます。また、この7日間一緒に過ごした13名の通し行進者とは深い絆ができたと思ひました。一生ものの仲間ができたことに感謝です。

医事課 事務 伊徳清寛

平和行進を終えて一番に驚いた事は、自分が想像していた以上に多くの基地がある事と、その基地の大きさでした。自分の足で実際に歩いてみて、これは初めて認識できることだと思ひます。抗議しながらも普段通り飛行しているヘリを見て、これからもみんなで力を合わせ、継続して抗議活動を続けていかなければならないという思いが強くなりました。平和行進を影で支えてくれた皆さん本当にありがとうございました。

手術室 看護師 金城幸平



虹の箱とは患者さまの声を医療活動に反映させていくための投書箱です。

### ご意見・ご要望

受付にいて思ったのですが、手が痛いと言ってきた老人の患者さんが整形の受付が終わったということで断られていたのを見ていてかわいそうに思いました。10分間の遅れでしたので、診察してもらえたらいいのに。

### ご返事

現在、整形外科は医師の体制上10時までの受付となっております。患者様には大変ご迷惑をおかけしております。

10時までの受付となっておりますが、予約外の場合診察までの待ち時間は2時間から3時間ほどとなっております。患者様には長い時間お待ちするよりも他院で早めに受診してもらったほうが良いと考え、他院を案内することもございます。

なお、早めに医師の診療が必要と判断した場合は、救急にて対応しております。ご不便をおかけしてはいますが、ご理解のほどご協力をお願い致します。

※救急診療の判断は医師・看護師が行います。

医事課 添石良樹

## 外来体制変更のお知らせ

### 心療内科 2013年6月17日～

	月	火	水	木	金	土
午前	小松知己	斉藤里菜	小松知己		小松知己	
午後		小松知己		外間宏人		

### 皮膚科 2013年7月～

	月	火	水	木	金	土
午前				山城栄津子		
午後						

### 眼科 2013年7月～

	月	火	水	木	金	土
午前	館 一男	館 一男		館 一男	館 一男	



葉の裏の赤紫色は、山間など日にあたる時間が限られ、一日の温度差が大きいほど鮮やかになるという。さて、沖縄市のサッカー場で見つかった十数本のドラム缶内容物の枯葉剤疑惑について、10日以上過ぎていくが何の進展もない。現代科学技術を以てすれば内容物が何か一瞬でわかるはずだが、今後の基地返還で同様の問題が発生するのは目に見えている。今後のために、ハンタマの葉の色のように今回ではっきり白黒(緑紫)をつけるべきである。

とよみ生協病院  
事務課長 金城稲子

## おきなわの自然

### ハンタマ

小さい頃から実家のアタイグワ(家庭菜園)にはフーチバー、ンスナバー、イチチョーバー、ンジャナなど沖縄独特の野菜が植えられていたが、珍しくハンタマは植えてなかった。何故か?と母に聞いたら、「頭が赤くて体が黒い毛の生えた虫が付くので怖くて植えなかつた」という。ハンタマと縁がない理由はわかつたが、ハンタマのことを調べるうちにすばらしい効能に興味が出てきた。

ハンタマは沖縄では昔から「血の薬、不老長寿の薬」として重宝されてきた。ビタミンA、鉄分、ポリフェノールを多く含み、その作用で視力回復、眼精疲労、貧血、老化防止に効果があり、外用では火であぶっても傷口につけると止血になるという。これだけ効能があれば虫なんて無視して早速ハンタマを買いに走った。栽培は簡単だ。種が出来ないので買って来たものを葉は食し、残った茎を水に浸しておくと根がでるのでそれをアタイグワに植えればよい。水を好むので十分に与える。

画・内科医  
上原和博